

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 山本 質素

研究課題		アジア農村における共同慣行・行事の特質について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	アジアの農業集落の生産の仕組みと家族の生活には、国ごとに、そして地理的環境ごとに、その内容に大きな差異がみられる。とくにカンボジア農業集落においては、国全体の歴史的経験（ポルポト政権支配とその後の内戦等）の特異性によって、生業における共同の仕組み・親族の共同の仕組み・家族生活等に大きな変容をもたらしてきた。国内において、平地と山麓部あるいは山間部高地集落との間に、それらの歴史的経験がどのように反映されているのか、あるいは国内農業の同質性が維持されているのか。この課題についてカンボジア国内各地での観察調査・インタビュー調査をもとに考察したい。
	研究の結果	カンボジア農村部の人間関係・社会関係に関する調査を行い、「共同の慣行」について明らかにした。具体的にはカンボジア農村における「プロワス・ダイ」（田植え作業や稲刈り作業等における労働交換の慣行）、および「チューイ・クニア」（家屋の増改築作業や、出産・結婚式・長寿の祝い・葬式等、人生の節目ごとに行われる人生儀礼＝通過儀礼の際の手伝い合いの慣行）が、農家の日常生活や社会関係を支える重要な慣行であることが明らかになった。
	研究の考察・反省	上記の「労働交換（プロワス・ダイ）」と「手伝い合い（チューイ・クニア）」を比較すると、前者において労働力を交換する相手となるのは、主として村内や集落内の隣人・友人等の同業者（農業者）であるのに対して、後者において主に労力や時間を提供するのは親類・親族である。これは、カンボジア社会において、生産活動の面における同業者（農業者であり、隣人・友人等、すなわち非親族の他者）と、家族生活における親族関係者の位置づけが異なる可能性を示している。同じくアジア社会であっても、隣人や友人を「親族」に擬（なぞら）えて捉えることを可能にしてきた日本社会や他のアジア諸国との異同を精緻に比較考察することが必要となるだろう。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>本年度プロジェクト科目（後期開講）「カンボジア研究」担当回の授業において「カンボジア農村の生活 ―シェムリアップ近郊農村の農家にみた共同慣行―」と題し、上記「研究の結果」と考察を中心に、日本農村の共同慣行と比較して講義した。</p>	